

## 令和4年産 主要農作物の生育状況

秋まき小麦	<p>播種期(9/20)は平年より3日早かった。11月の大雨(約140mm)や根雪が遅く、土壌凍結が深かったため雪腐病や凍上害の発生が多かった。起生期(4/2)は平年より3日遅かったが、その後の高温により出穂期(6/1)は4日早かった。7月の多雨・日照不足により登熟は緩やかに進み、成熟期(7/21)は平年並であった。生育期間を通して気温が高く、降水量が多かったことから草丈・稈長は平年より長かったが、穂長は短く、穂数は少なかった。収穫期間はおおむね好天に恵まれ、収穫は順調に進み、収穫始(7/25日)、収穫期(7/29)、収穫終(8/2日)は平年並みであった。登熟期間中の日照不足などにより製品歩留まりや外観品質の低下がみられ、製品収量・品質は平年並〜やや下回る結果となった。</p>
ばれいしよ	<p>植付期(4/22)は平年より5日早く、萌芽期(5/19)も4日早かった。6月上旬の低温で生育はやや鈍化したが、その後高温で経過したため、開花期(6/23)は平年より2日早かった。7月も高温が続いたことから生育が進み、茎葉黄変期(8/4日)は平年より3日早かった。8月に降雨日が多かったが、9月の好天により収穫作業は順調に進み、収穫期(9/6)は平年より1日早く、収穫終(9/22)は3日早かった。夏場の雨と日照不足の影響で上いも1個重はやや小さめであったが、1株当たりの上いも数は平年より多く、収量はほぼ平年並となった。でんぷん価は平年よりやや低かった。</p>
豆類	<p>豆類の播種期は平年より2~3日程度早く、出芽期はほぼ平年並であった。6月中旬以降も生育は順調で、開花期は平年より2日早かった(開花期:大豆(7/16)、小豆(7/23)、金時(7/13)、手亡(7/21))。その後多雨、日照不足が続き、金時、手亡は着莢数や成熟期に影響が見られた。大豆、小豆は天候の影響が少なかった。成熟期は大豆(9/22)、小豆(9/15)が平年より2~3日早く、金時(9/4)、手亡(9/16)は平年並であった。収穫作業は、小豆と金時は好天に恵まれ収穫作業は平年より早く進み、大豆と手亡は天候不順のため平年より遅れた。収穫期:大豆10/23(遅8日)、小豆9/28(早7日)、金時9/9(早6日)、手亡9/30(遅2日)。豆類の収量は、大豆、小豆、金時は平年並で、手亡はやや下回ると見込まれる。品質はおおむね平年並であるが、大豆は10月中旬の雨でやや低下がみられる。</p>
てん菜	<p>播種期(3/9)は平年より1日早かった。移植作業は順調に進み、移植期(4/26)、移植終(5/4)は平年より2日程度早かった。移植後少雨と強風により活着はやや不良で、一部茎葉損傷や枯死が発生した。その後は降水量があり、高温傾向になったため生育は回復し、根部の肥大も順調であった。しかし、6月中旬以降は高温、多雨、日照不足の天候が長く続いたことから、次第に湿害の発生や褐斑病などの発生が多く見られるようになった。収穫作業は好天に恵まれ、収穫始(10/14)、収穫期(10/28)、収穫終(11/6)は平年より1~2日程度早かった。夏場以降の天候不順や病害の発生等により収量は平年をやや下回り、根中糖分も平年より低い傾向にある。</p>
ながいも	<p>植え付け作業(5/8)は平年より2日早く始まり、終了も5/24と平年より2日早かった。萌芽は、6月上旬の低温により揃うまでに日数を要したほ場も見受けられたが、5月が温暖に推移したことで平年より1日早い6/4に萌芽期を迎えた。萌芽後の生育は、6月前半が低温で経過したことから緩慢であったが、6月後半から7月末にかけて高温傾向で推移したことから、茎葉の生育は良好であった。</p> <p>一方、新しいもの伸長は、いも重、いも径ともに9月上旬までは順調に経過した。しかし、9月中旬以降は一時を除いて日照時間が平年を下回ったことで新しいもの伸長・肥大は緩慢となり、10月以降は伸び悩んだ。その結果、新しいもの1本重およびいも長は平年をやや下回った。品質面では、乾物率は収穫時にはおおむね平年並みとなったが、6月中旬以降のまとまった降雨で肥料成分が流亡し、尻部のリングやコブなどの奇形がほ場の低みや外周等で認められた。</p> <p>※JA帯広かわにし管内の作付品種が、令和2年度から「とちかち太郎」に切り替わっており、平年比は参考とする。</p>
牧草(チモシー)	<p>萌芽期は4/10(早1日)であり、気温の上昇とともに生育は概ね順調に推移し、出穂期は6/12(遅2日)となった。収穫作業は収穫始6/15(遅2日)に開始され、その後は順調に進み収穫期は6/19(早2日)だった。その後も順調に進み収穫終は7/4(遅2日)となった。6月中旬から6月末までの低温と雨水不足の影響もあり、10a当たりの1番草収量は2,701kg(平年対比93.9%)となった。</p> <p>2番草は高温、多雨傾向の気象が続き草丈は大きく推移した。収穫は天候不順であったが収穫期8/22(早2日)収穫終9/2(±0日)となった。こうしたことから、10a当たり収量は1,316kg(平年対比90.5%)であった。年間合計収量は4,017kgと平年対比92.8%となった。</p>

サイレージ用 （しんじょうもつ）	<p>は種作業は順調に進み、播種期は5/6（早3日）であった。生育は6月中旬から7月始めまで低温傾向だったが、それ以外の時期が高温傾向だったため雄穂抽出期7/26（早1日）、絹糸抽出期7/27（早1日）となった。その後は気温の変動が大きくやや高温傾向だったこともあり糊熟期8/29（早5日）黄熟期9/10（早4日）であった。</p> <p>収穫作業は収穫始9/6（早3日）と順調に始まり、天候に恵まれ収穫期は9/21（早1日）だった。その後も順調に作業が進み収穫終は10/7（早5日）であった。</p> <p>生総重は、10a当たり6,038kg（平年対比98.1%）、TDN収量1,075kg（平年対比94.4%）となった。乾物率は25%と平年より0.96%低かった。</p>
---------------------	---

## 作況調査概要及び10a当たり収量

作物名		生育状況						10a当たり収量		
		調査基準日	項目(単位)	数量	項目(単位)	数量	項目(単位)	数量	本年(kg)	平年(kg)
秋まき小麦 (きたほなみ)		7/15	稈長 (cm)	83.5 (74.9)	穂数 (本/m <sup>2</sup> )	677.3 (698.0)	穂長 (cm)	8.3 (8.9)	566	635
馬鈴しょ	食用 (メークイ)	8/1	茎長 (cm)	96.8 (65.4)	茎数 (本/株)	3.6 (4.0)	-	-	3,105	3,167
	加工用 (トコ)			68.2 (62.1)		3.1 (3.3)		-		
大豆		9/1	茎長 (cm)	83.1 (72.1)	葉数 (枚)	10.5 (9.9)	着莢数 (個/m <sup>2</sup> )	610.4 (591.2)	299	295
小豆		9/1	茎長 (cm)	69.2 (56.3)	葉数 (枚)	11.2 (11.2)	着莢数 (個/m <sup>2</sup> )	367.2 (361.5)	209	260
金時		9/1	茎長 (cm)	58.9 (51.8)	葉数 (枚)	4.4 (4.3)	着莢数 (個/m <sup>2</sup> )	128.6 (126.1)	123	146
手亡		9/1	茎長 (cm)	55.5 (61.1)	葉数 (枚)	7.7 (8.2)	着莢数 (個/m <sup>2</sup> )	162.0 (198.7)	221	192
てん菜		10/15	根周 (cm)	41.0 (41.3)	-	-	-	-	6,530 (16.0)	7,213 (16.8)
ながいも	川西地区	11/1	いも長 (cm)	66.5	いも重 (g)	1,101	いも径 (mm)	70.3	4,211	3,720
	大正地区			66		1,034		63.4		
牧草		1番草 6/15 2番草 8/15	1番草 草丈 (cm)	107.9 (106.0)	2番草 草丈 (cm)	101.8 (96.8)	-	-	4,017	4,257
サイレージ用 とうもろこし		8/15	稈長 (cm)	293.1 (286.4)	葉数 (枚)	17.5 (17.5)	-	-	6,038	6,157

- 注1) 生育状況：帯広市農業施策推進委員会調べ。下段( )は平年値  
 注2) ながいもの平年値については、JA帯広かわにし管内の作付品種が「とかち太郎」に切り替わってから3年が経過していないため、記載していない。  
 注3) 10a当たり収量における平年値：帯広市調べ。てん菜下段( )は糖分  
 注4) 10a当たり収量における本年値：帯広市推計値  
 注5) 10a当たり収量：秋まき小麦はきたほなみ、ゆめちからを、馬鈴薯は食用、加工用、澱粉用、種子用を含む。